

小学校体育科における教科等横断的な学び

—— 外国語科との学びをつなぐ授業の提案 ——

東城由香利¹⁾ 金沢 翔一²⁾ 根本 想³⁾ 岡田 悠佑⁴⁾

The Cross-Curriculum Learning in P.E. in Elementary Schools:

The Proposal of Cross-Curriculum Lesson with Foreign Language

Yukari Tojo Shoichi Kanazawa So Nemoto Yusuke Okada

Abstract

The purpose of this study is to organize “cross-curriculum learning” from the guiding principle of Japan and preceding study and proposing a lesson that makes use of the characteristics of both Physical Education and Foreign Language. As a result, we could propose a lesson about both the units of P.E. and Foreign Language by connecting with the ways of thinking in each subject. In conclusion, we would like to state the following two points.

- 1) It will be better to arrange the number of sports to learn based on the pupils of each individual school.
- 2) It's effective to introduce the activities focused on the Olympic and Paralympic athletes or places associated with their hometown.

However, we still have a problem with the aspect of evaluation. In this research, we could evaluate pupils in Foreign Language, but in P.E. we only evaluate their knowledge. We need to deepen the method of evaluation as a “cross-curriculum learning.”

Key words: the cross-curriculum learning, elementary school, P.E.,

English the Olympics and the Paralympics

キーワード：教科横断的な学び，小学校，体育科，外国語科，オリンピック・パラリンピック

I 問題の所在

平成 29 年に改訂された小学校学習指導要領総則（文部科学省，2018a）では、「育成を目指す資質・能力の明確化」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」、「カリキュラム・マネジメントの確立」等が挙げられている。その内、「カリキュラム・マネジメントの確立」

において、言語能力等の学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るとし、「教科横断的カリキュラム」をこれまで以上に意識していくことが示された。さらに、小学校学習指導要領総則（文部科学省，2018a）では、学校教育における質の高い学びを実現することで、児

1) 南アルプス市立白根百田小学校

2) 山梨大学教育学部

3) 育英短期大学現代コミュニケーション学科

4) 明治学院大学教育発達学科

童が学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることを指すために、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を推進していくこととしている。その一つとして、「各教科の特質を生かして生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が養われること」が挙げられている。ここから、健康や安全について学ぶことを特質とする体育科を生かした指導が、他教科と関わることで、先に述べた児童に育ませたい資質・能力を高めることに深く結びつくと考えられる。

そこで、本研究では各教科の目標に「見方・考え方」という文言が入っていることに着目した(文部科学省, 2018a)。これは、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか(文部科学省, 2017, p.25)」を示しており、この各教科で鍛えられた「見方・考え方」を働かせながら、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出すことができるものとされている。(文部科学省, 2017)。体育科における「見方・考え方」は、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関りかたと関連付けること(文部科学省, 2018b, p.18)」であるとされている。生涯にわたってスポーツを楽しむという観点から、プレイするだけでなく、観戦することやスポーツ活動を支えること、及びスポーツの起源や支えている存在があることを知ること等の多岐にわたって考えることも含みながら学ぶ必要があることが分かる。

こうした中で、教科横断型の先行研究の報告は少なく、体育科と他教科との教科横断的な学びの実践に関する報告は稀有である。体育科の本質を貫いた教科等横断的な学びの実践の蓄積によって、今後の教科横断的な学びに対する示唆を与えることができると思われる。そこで、本研究では、先行

研究からこれまでの体育科における教科等横断的な学びについて整理し、学校現場で実践可能な体育科と他教科との教科横断的な学びの授業実践案について提案することを目的とする。

Ⅱ 体育科における教科横断的な学びに関する先行研究の検討

小出ほか(2021)は、小学校2年生60名を対象として、特別の教科道徳と体育の教科横断的な視点から自己肯定感を高めることをねらいとした授業を実践した。特別の教科道徳では、友人の善行の目撃や自分が友人の行為を受けて嬉しかったことを書いて発表する活動を行い、体育科では、児童同士で運動やその取り組みに対して励ましや称賛の言葉かけをするように促したグループ活動を行った。その結果、自己肯定感に関する全9項目のうち8項目において、肯定的な回答の割合が事後調査で高率を示したと報告している。特別の教科道徳と体育での教科横断的な取組が、自己肯定感の向上に効果的であることを示唆している。また、高瀬ほか(2017)は、高学年複式学級を対象に、国語科における「自分の考えや意見を、理由や根拠を挙げながら説明できる」という学習内容を体育授業の言語活動に位置付けて活用することで、体育授業における話し合い活動の活性化、運動についての考察を発展させる効果について検証を行った。ビデオ観察及び学習カードの評価から、児童の話し合い活動が活性化され、個人および集団の考えが発展したことが確認でき、このことから、国語と体育における教科横断型学習によって、効果的な話し合い活動を展開できたと報告している。中島ほか(2014)は、小学校高学年の複式学級を対象に、国語授業において論理的に文章を記述・作成するという学習内容で使用する学習カードを、体育授業においても近い形の様式に合わせることによって、体育授業の中での言語活動の促進による運動における課題発見につなが

るかについて授業実践を通じて調査を行った。その結果として、体育授業の中でも児童たちは国語の学習内容を踏まえた取組を実現することができ、体育における学習の中で様々な意見や視点から、児童それぞれが主体的に自身の課題をみつめることにつながっていたとしている。言語活動や言葉の学習は国語科以外の教科でも応用・導入することが可能であり、それぞれの教科での学習でも広げるメリットと必要性があるとした。これらの先行研究では、国語科または特別の教科道徳と体育科の教科横断型学習を行っている。しかし、一方の教科で有効性が確認されている手法が、もう一方の教科でも児童の資質・能力を高めることができるかを実証したものであり、文部科学省(2018a)が挙げている各教科等の特質(両方の教科の特質)を活かした教科横断的な視点での実践とは考え難い。

衣笠(2018)は、身体活動が主となる体育科と、動作イメージが記憶に影響を与える英語(外国語科)との教科横断的授業が、第二言語習得に与える影響について実践を行っている。小学校6年23名を対象に、体育科の器械運動領域の授業において、数字のカウントや簡易な指示語を学級の学びに応じて英語に言い換えて授業を行った。結果、英語で教員が話すことを児童がわかっていると比較的集中して話を聞こうとする態度が見られたことに加え、日本語の授業と同様に英語での授業が可能であると報告しており、体育科は簡易な動きや語句を外国語に言い換えた教科横断的な学習の可能性を示唆している。この実践からは、体育科において外国語科の特質である言語習得が可能であるということが伺えるが、体育科の技能へ与える影響については明らかにされていない。両教科の特質を生かした教科横断的な学びの中で、子どもの資質・能力が確実に伸長される授業提案が必要であると考えられる。

以上のように、これまでの研究では、学習指導要領に示されているような教科横断的な学びが実

践されているとは言い難く、さらなる実践の蓄積が必要であろう。加えて、教科横断的な学びであっても各教科の見方・考え方を活かした授業実践の報告は見られない。

そこで本研究では、体育科(文部科学省, 2018b)での「見方・考え方」の内、『する・みる・支える・知る』の多様な関りかたと関連付けることに着目し、生涯にわたってスポーツを楽しむという観点で、『みる・支える・知る』を伸長することを目的とし、オリンピック・パラリンピックを題材として取り上げることとした。また、世界の祭典を題材とすることから関連が図りやすいと考えられる外国語科との教科横断的な学びとする。外国語科の「見方・考え方」では、「外国語で表現し合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかわりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること(文部科学省, 2018c, P.11)」とある。体育科のオリンピック・パラリンピックを『みる・支える・知る』という内容と、外国語科の『外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかわりに着目すること』で外国語でのコミュニケーションを図れる内容を踏まえた授業が提案できると考えられる。

Ⅲ 体育科と外国語科をつなぐ教科横断的な学びの提案

1 単元及び教材について

本提案では、小学校第6学年を対象とし、外国語科において2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピックやこれまでのオリンピック・パラリンピックを題材に取り上げる。単元目標を、「オリンピックやパラリンピックへの理解を深めるとともに、見たい競技を知ってもらったり相手の思いを知ったりするために、具体的な情報を聞き取ったり、好きな競技や見たい競技を伝

え合ったりできる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書くことができる。」とし、外国語でのコミュニケーションを図れる内容に加え、体育科の「見方・考え方」の「みる・支える・知る」にあたる多様な関わり方にもつながる単元計画を展開する。オリンピック・パラリンピックは、人種、差別、言語、宗教などの違いを超え、多様性と調和のある世界平和への発展や個の尊厳を願って行われるスポーツの祭典である。児童が多角的な視点において運動やスポーツを理解し、外国語科と体育科の両方の視点で自己の思考を広げたり深めたりする機会となると考える。

なお、本単元では、外国語科を軸に評価（表1）を行うこととする。しかし、小学校学習指導要領（2018）において、「オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実」として、ルールやマナーを遵守することの大切さやスポーツの意義や価値に触れるよう指導することが明示されていることから、体育科の評価においては、「知識」として

評価できる内容で児童が記入できるよう、学習カードの記述面を工夫することとする。

また、今回は光村図書（2019）の「Here We Go! 6」の「Unit3 What do you want to watch?」がオリンピック・パラリンピックを題材としていることから、本研究の教材として使用する。オリンピック・パラリンピックを題材とする単元がない教科書もあるが、“He (She) can ~”「～できる」を用いて身近な人を紹介する単元や、“My hero is ~”を用いて、自分のヒーローを紹介する単元等で代用できると考える。

本教材には、実際に活躍するアスリートの写真やインタビューが掲載されている。また、友達とやり取りしながら、“I want to watch ~.”などの表現を習得することができる内容となっている。さらに、そこに体育科の内容『みる・支える・知る』の視点を取り入れるため、「自分のオリジナルのガイドブックづくり」を行っていく展開としていく。外国語科の「見方・考え方」にもあるように、外国語やその背景となる文化を実際に触れる

表1 関係する領域別評価と単元の評価基準

関係する領域別評価	聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。		
	「やり取り」話すこと	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。		
※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。				
単元の評価基準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	聞くこと	〈知識〉競技名や“I want to watch ~”や“What do you want to watch ?”などやその答え方について理解している。 〈技能〉見たいスポーツについて具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	相手のことよく知るためや、オリンピック・パラリンピックのことへの理解を深めるために、具体的な情報を聞き取っている。	相手のことよく知るためや、オリンピック・パラリンピックのことへの理解を深めるために、具体的な情報を聞き取るようとしている。
	「やり取り」話すこと	〈知識〉競技名や“I want to watch ~”や“What do you want to watch ?”などやその答え方について理解している。 〈技能〉見たいスポーツについて、“I want to watch ~”や“What do you want to watch ?”などを用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

目的から、2021年に東京で実際にオリンピック・パラリンピックが開催されたことを生かし、可能な限り本物にこだわって授業を展開し、オリンピック・パラリンピックの歴史や、実際に使われたピクトグラム、参加国の様子等を調べ・考える活動を展開することで、両教科の特質を生かした「教科横断的な学び」につながると考える。

2 単元計画について

表1に示した評価規準にあるように、本来の外国語科の評価規準に加え、「オリンピック・パラリンピックへの理解を深めるために」を目的に追加した。全7時間中、前半の4時間と最終の1時間の計5時間にわたり、オリンピック・パラリンピックを『みる・支える・知る』の視点を児童と共有し、そこで得た知識を使って外国語でのコミュニケーション活動へ展開していく。1時間で1ページのワークシートを使い、それをガイドブックとして仕上げていく展開とする。また、児童の意欲付けの一つとして、オリンピック・パラリンピックで使用されているピクトグラムを紹介するなど、可能な限り本物を提示しながら授業を展開するとともに、児童が英語での活動を多く展開できることを前提に授業を行う。なお、単元計画は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校外国語・外国語活動』（国立教育政策研究所，2020）を参照しつつ作成した。

図1に1時間目から4時間目の単元計画を示した。1時間目では、オリンピック・パラリンピックの歴史について学び、古くから続いている競技名の英語での言い方を聞いたり言ったりすることを目標とする。本単元への意欲付けとなるように、導入において「好きなスポーツ」についてのSmall Talkを行い、オリンピック・パラリンピックの話題にふれる。また、ピクトグラムを紹介しながら、どんな競技が古くから行われてきたか、また現代は行われていない競技はどんなものが

あったのかという体育科の学びをワークシート1に記入する活動や、それを英語では何というのかという外国語科の学びを融合した活動を展開する。Let's Readで競技名の言い方を反復練習したり、Let's Playでは外国語活動で親しんだポイントティングゲームを行ったりするなど、児童がたくさんの英語表現に触れる時間をとるようにする。1時間目は、主に児童への意欲付けや競技名をインプットする時間ととらえ、外国語科での記録に残す評価は行わないこととするが、振り返りカードの中に、今日学んだオリンピック・パラリンピックの知識を問う枠を設け、体育科の「知識」の評価として見とれるようにする。

2時間目では、東京オリンピック・パラリンピックに参加した国に焦点を当てた授業を展開する。外国語活動や第5学年で扱ってきた国に加え、世界地図を提示しワークシート2に記入しながら、児童になじみの薄い国にも焦点を当てる。国旗クイズなどのクイズ形式で国を当てたり、その国の多くの選手がエントリーしていた競技名を当てたりする活動を行う。多くの国がこの平和の祭典に参加しているという体育科の視点と、その競技名の英語での言い方を聞いたり言ったりできる外国語科の視点で展開し、児童が世界に目を向ける時間とする。また、1時間目同様、競技名を繰り返しリピートする時間や慣れ親しんだゲームであるミッシングゲームを取り入れ、児童がたくさんの英語表現に触れる時間をとるようにする。振り返りカードは1時間目と同じように今日学んだオリンピック・パラリンピックの知識を問う枠を設け、外国語科での記録に残す評価は行わない時間とする。

3時間目では、オリンピック・パラリンピックの意義やレガシーについて学び、見たい競技を聞き取ることを目標に展開する。オリンピック・パラリンピックが始まった経緯やレガシーとして残された建物等を知りワークシート3に記入したり、さらにその建物で行われていた競技名を英語で聞

いたり言ったりする活動を行ったりする。また、chantでリズムよく“I want to watch～.”の言い方を知り、デジタル教科書の音声を取り取る活動や、カルタゲームで相手の見たい競技を探す活動

を仕組み、評価規準「聞くこと」の「知識・技能」について評価する。オリンピック・パラリンピックのレガシーにおいては、招致実績のある市町村ではそれを取り上げるなどし、児童の身近に存在

時	目標◆・活動○【 】	評価		
		知	思 態	
1	<p>◆オリンピック・パラリンピック（歴史）について知るとともに、競技名を聞いたり言ったりすることができる。また、競技名を書き写すことができる。</p> <p>○Small Talk：好きなスポーツ ○Today's Goalの確認 ○オリ・パラの歴史について知る。（ワークシート1） 【Story】P.38 ○Let's Read 競技名をリピートする。（ワークシート1） ○Let's Play ポインティングゲーム（ワークシート1） ○単元のめあてを確認し合い、次時に向けた話を聞く。 ○振り返り（授業の感想とオリ・パラについて学んだことや疑問）</p>			<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> <p>【体育科との教科横断として】 オリ・パラの歴史を知り、古代より続いている競技名の英語の言い方を学ぶ。また、疑問や関心を学習カードに記入させ、次時の指導に生かす。</p>
2	<p>◆オリンピック・パラリンピック（参加国）について知るとともに、競技名を聞いたり言ったりすることができる。また、競技名を書き写すことができる。</p> <p>○Small Talk：知っている国 ○Today's Goalの確認 ○Let's Play 国旗クイズ（ワークシート2） ○Let's Play ミッシングゲーム（ワークシート2） ○Let's Read 競技名をリピートする。（ワークシート2） ○振り返り（授業の感想とオリ・パラについて学んだことや疑問）</p>			<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> <p>【体育科との教科横断として】 オリ・パラの参加国について知り、その国が出場している競技名の英語の言い方を学ぶ。また、疑問や関心を学習カードに記入させ、次時の指導に生かす。</p>
3	<p>◆オリンピック・パラリンピック（概要・レガシー）について知るとともに、オリンピック・パラリンピックで、相手が見たい競技について聞き取っている。</p> <p>○Small Talk：見たい競技 ○Today's Goalの確認 ○オリ・パラの概要やレガシーについて知る。（ワークシート3） ○Let's Read 競技名をリピートする。（ワークシート3） ○Let's Play キーワードゲーム（ワークシート3） ○【Let's chant.】P.42 “I want to watch rugby.” ○Let's Play カルタ ○振り返り（授業の感想とオリ・パラについて学んだことや疑問）</p>	聞	聞	<p>◎相手の見たいスポーツについて具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。＜行動観察・記述＞ ◎相手のことよく知るため、オリンピック・パラリンピックのことへの理解を深めるために、具体的な情報を聞き取ろうとしている。＜行動観察・記述＞ ・児童が聞き取る様子や記述を分析し、評価の記録を残す。</p> <p>【体育科との教科横断として】 オリ・パラの概要やレガシーを知り、それに関係の深い競技名の外国語の言い方を学ぶ。また、疑問や関心を学習カードに記入させ、次時の指導に生かす。</p>
4	<p>◆オリンピック・パラリンピックに出場している選手の話聞き理解を深めるとともに、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。</p> <p>○Small Talk：見たい競技 ○Today's Goalの確認 ○【World Tour】P.44 オリ・パラで活躍する選手の話聞く。 ○Let's Read 競技名をリピートする。（ワークシート4） ○競技について調べる。（ワークシート4） ○Let's write 自分が見たい競技を1つ書く。 “I want to watch（競技名）.”（ワークシート4） ○振り返り（授業の感想とオリ・パラについて学んだことや疑問）</p>		聞	<p>◎相手のことよく知るため、オリンピック・パラリンピックのことへの理解を深めるために、具体的な情報を聞き取っている。＜行動観察・記述＞</p> <p>【体育科との教科横断として】 オリ・パラに出場している選手の思いにふれ、その競技名の外国語の言い方を学ぶ。さらに、自分が見たい競技を明確にするために、競技について調べる時間をとる。また、疑問や関心を学習カードに記入させ、次時の指導に生かす。</p>

図1 単元前半（1～4時間目）の計画

していることを指導する。1時間目同様、学習カードの記述を、体育科の評価に反映できるようにする。

4時間目では、オリンピック・パラリンピックに出場している選手の話聞きとり、競技への理解を深め「聞くこと」の「思考・判断・表現」の評価を行う。また、その競技の競技名を英語で聞いたり言ったりするとともに、これまで学んできた競技から見たい競技を決め、それについて調べる活動を行う。見たい競技のことを調べ、知ること、スポーツの意義や価値に気付かせる。また、この時間は「書くこと」を目標に行うが、本単元では「書くこと」の評価は行わない。体育科として、選手の気持ちや競技に対する「知識」を深めることに焦点を当てた学習カードの記述を見取ることとする。また、次時に向けて、自分の見たい競技を決めるため、競技について調べる時間をしっかりと、ワークシート4に記入するようにする。

図2に5時間目から7時間目の単元計画を示した。

5時間目と6時間目は、主に外国語科での「話すこと（やりとり）」の活動を仕組み、自分が見たい競技を伝え合う技能を身に付けていく。“What do you want to watch?” や “I want to watch ~.” の言い方を理解するとともに、相手に尋ねることができる技能を育む時間とし、「話すこと（やりとり）」の「知識・技能」の評価を行う。3時間目に取り上げた chant をもう一度行い理解を深める活動や、友達とのやりとりの時間を多く確保し、外国語で自分の気持ちを伝え合うための資質と能力を育むことができるよう、Let’s listen で聞いたり、Let’s Try で伝え合ったりする活動をたくさん仕組む。中でも、6時間目の導入では、7時間目に行うパフォーマンステスト（表2）の内容を Small Talk として扱い、児童が見通しをもって活動できるようにする。6時間目では、「話すこと（やり取り）」の「思考・判

断・表現」や「態度」の評価は行わないが、7時間目での評価だけでは見取りが難しい児童においては、行動観察時に次時に向けての意識づけや支援を行う。

7時間目は、最終の時間となるため、パフォーマンステストを行う。導入では、目指したい姿として、中学1年生の生徒がパフォーマンステストの内容をやりとりしている場面（映像）を児童に見せる。これには、昨年度まで同じ小学校に通っていた身近な人のやりとりを見せることで、「自分たちにもできる」という意欲と、「中学生みたいに上手にはなせるようになりたい」という向上心を掻き立てる目的がある。また、その中学生の会話から、自分の気持ちを相手に伝えるには、ジェスチャーや目線が大切であることも再認識させ、教師がパフォーマンステストで求めている姿を児童に伝える手立てとする。単元の最終時間であるため、体育科の学びのまとめとして、オリンピック・パラリンピックでボランティア活動をした人たちのインタビュー記事を読み、大会を支えている人たちの思いを知る時間をとる。オリンピック・パラリンピックは選手や開催者だけでなく、多くの人に支えられている大会であることを知る機会とする。学習感想として、オリンピック・パラリンピックについて、単元を通して発見したことやこれからさらに深めていきたいことを記述させ、体育科のまとめとして発表させる。

表2 パフォーマンステスト会話内容

役割	会 話 内 容
S1	Hello.
S2	Hello.
S1	What sport do you want to watch ?
S2	I want to watch () .
S1	Why ?
S2	It’s exciting. How about you ?
S1	I want to watch () . It’s fun.
S2	Nice !
S1・S2	Thank you.

時	目標◆・活動○【 】	評価		
		知	思	態
5	◆オリンピック・パラリンピックで見たい競技について伝え合うために、尋ねたり答えたりしている。 ○Small Talk：見たい競技（やりとり） ○Today's Goalの確認 ○【Let's listen】P.40 話を聞いて、競技名を入れる。 ○【Let's chant.】P.40 “Do you want to watch wrestling?” ○【Let's try.】P.41 同じ競技を見たい友達をさがす。 ○振り返り	や		
				◎競技名や“I want to watch～”の言い方について理解し、見たいスポーツについて、“I want to watch～”を用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。＜行動観察・記述＞ ・児童が聞き取る様子や記述を分析し、評価の記録を残す。
6	◆オリンピック・パラリンピックで、何の競技を見たいかとその理由について伝え合う。 ○Small Talk：見たい競技（やりとり） ○Today's Goalの確認 ○【Let's listen】P.42 人物とその人の見たい競技を線で結ぶ。 ○【Let's chant.】P.42 “I want to watch rugby.” ○【Let's try】P.43 同じスポーツを見たい友達を探す。 ○振り返り	や		
				◎競技名や“I want to watch～”や“What do you want to watch?”などやその答え方について理解し、見たいスポーツについて、“I want to watch～”や“What do you want to watch?”などを用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。＜行動観察・記述＞ ・児童が聞き取る様子や記述を分析し、評価の記録を残す。
7	◆自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。 ○Small Talk：見たい競技 ○Today's Goalの確認 ○Let's Watch and Think 中学生の会話から言い方を確認する。 ○Activity クラスの友達に見たい競技を訪ねる。 ○オリ・パラについて知る（オリ・パラを支えている人たち）。 ○単元のまとめとふりかえり（学習カード） ・オリ・パラについて気付いたことや分かったこと、これからさらに理解を深めたいことをまとめる。	や	や	
				◎自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。＜行動観察・記述＞ ◎自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。＜パフォーマンス評価・記述＞ 児童が聞き取る様子や記述を分析し、評価の記録を残す。 [体育科との教科横断として] オリ・パラでボランティアをしている人の話を聞き、競技を支えている人の思いを知る。

図2 単元後半（5～7時間目）の計画

IV まとめ

本研究は、国の指針や先行研究から「教科横断的な学び」について整理し、体育科と外国語科の両教科の特質を生かした教科横断的な授業を提案することを目的とした。その結果、両教科の「見方・考え方」に着目し、体育科のオリンピック・パラリンピックを『みる・支える・知る』という内容と、外国語科の『外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかわりに着目すること』において外国語でのコミュニケーションを図れる内容を踏まえた授業が提案できた。各学校の児童の実態に合わせて習得する競技名の数を調整したり、地元ゆかりのあるオリンピック・パラリンピックの選手や場所などに焦点を当てた授

業を展開したりすることも目的に即して有効であると考えられる。

しかし、本研究では提案にとどまり、実践するに至っていない。児童や地域の実態に合わせた実践を行うことで、課題が見えてくるだろう。また、今回は外国語科での評価を主に行い、体育科での評価は学習感想から「知識」を見取るだけにとどまっている。学習指導要領では、小学校の体育科において、「知識」はあくまでも「運動を通じて」身につけていくものとして位置づけられている（文部科学省, 2018b）。このことをふまえるならば、本研究の提案にとどまらず、運動実践を通じた体育科と外国語科の教科横断的な授業実践のあり方についても今後検討していく必要があるだろう。さらに、教科横断的な学びを通して、教科等の枠

組みを越えた資質・能力を育成していくための方策について模索していくことも今後の課題として挙げられるだろう。

文献

- 衣笠暢将 (2018) 「教科横断的な授業づくりに関する一考察—小学校体育科と外国語科に着目して」『日本教育大学協会卒業・修士論文集』 http://pejauc.xsrv.jp/pdf/2018_26s2_01.pdf (参照日 2021年11月10日)
- 小出真奈美・片岡千恵・荒井信成 (2021) 「小学校低学年における児童の自己肯定感を高める授業の試み—特別の教科道徳と体育の教科横断的な取り組みから」『日本健康教育学会誌』 29(1) : 61-69.
- 高瀬淳也・中島寿宏 (2017) 「小学校における効果的な話し合い活動の実現を目指した教科横断型授業—体育授業における国語の学習内容と接続させる授業事例から」『北海道体育学研究』 52 : 21-28.
- 中島寿宏・秋野禎見・高瀬淳也 (2014) 「へき地小規模小学校における ICT 利用による児童の協働性を引き出す体育授業—クラウドコンピューティングを用いた 2 小学校間の交流実践」『運動とスポーツの科

学』 20(1) : 113-120.

- 小泉 仁・加賀田哲也 (編) (2019) 『Here We Go!6』 光村図書出版.
- 文部科学省 (2017) 「新しい学習指導要領の考え方—中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ—」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2017/09/28
- 文部科学省 (2018a) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総則編』 東洋館出版社
- 文部科学省 (2018b) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 体育編 平成 29 年 7 月』 東洋館出版社
- 文部科学省 (2018c) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編 平成 29 年 7 月』 東洋館出版社 /1396716_1.pdf (参照日 2021年11月10日)
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動』 東洋館出版社

(2022年1月25日受理)